

野菜散布用殺虫剤

ベネビア® OD

powered by

CYAZYPYR®
ACTIVE INGREDIENT



生まれたままの美しさ。

キスジノミハムシの上手な防除

ポイント 害虫が多発する前に、予防的に使用する。

初回散布時に初期密度を徹底的に落とす。

(生育期:前処理剤の残効期間内の散布)



*効果安定のため必ず播種時の粒剤処理と体系を組んでください。

だいこんでの混用事例 (2018年11月19日作成)

殺菌剤		マイコシールド水和剤	殺虫剤	
アミスター20フロアブル	ダコニール1000	マスタピース水和剤	アドマイヤーフロアブル	
カセット水和剤	バイオキパー水和剤	マテリアナ水和剤	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	
スターナ水和剤	バリダシン液剤5	ランマンフロアブル	ハチハチ乳剤	

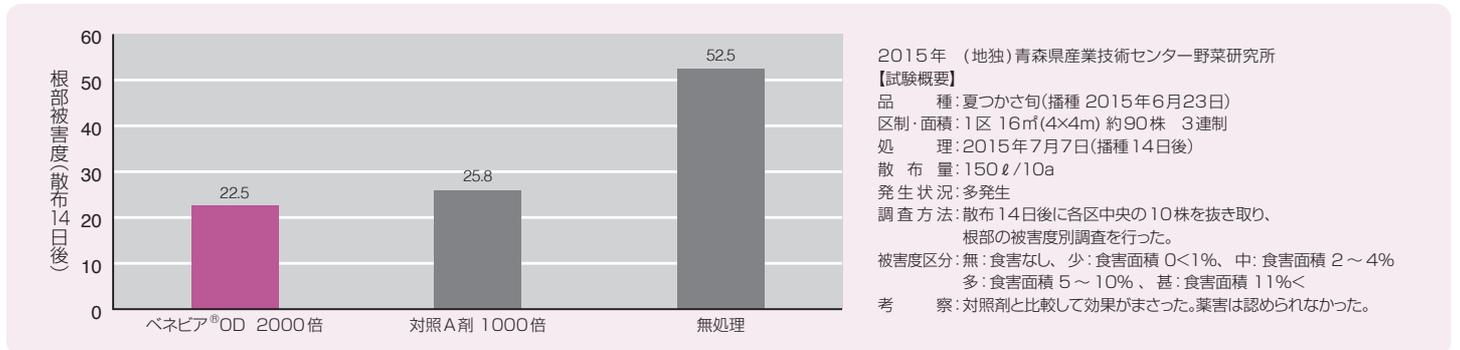
※本表は実施した試験をもとに作成しておりますが、品種、栽培条件、使用濃度、使用時期などにより結果が異なる場合があります。したがって、本表で「葉害がない」ということを保証するものではありません。あくまでも混用知見の一例として考えていただきますようお願いいたします。

だいこん／キスジノミハムシに対する試験事例 (日本植物防疫協会 新農薬実用化試験)

年度	場所	発生	本剤防除価	対照剤防除価	対照薬剤	最初の散布
2008	新潟高冷	甚	74.2	61.9	A剤	播種8日後
2008	日植防 高知	少→中	87.4	58.6	B剤	播種13日後
2009	新潟高冷	甚	51.6	31.7	B剤	播種15日後
2009	日植防 高知	少→中	62.2	41.9	B剤	播種24日後
2012	石川(野)	甚	92.1	62.9	A剤	播種14日後
2012	日植防 茨城	甚	82.5	59.5	B剤	播種8日後
2012	岐阜植	多	87.1	45.8	B剤	播種15日後

ベネビア[®] OD、対照剤とも2000倍(7~14日間隔での複数回散布)。いずれの試験においても、ベネビア[®] ODは対照剤にまさる効果を示した。また、葉害は認められなかった。

だいこん／キスジノミハムシ 根部被害程度調査結果



適用害虫と使用方法(適用表から一部抜粋)

2019年3月現在

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロロールを含む農薬の総使用回数
だいこん	コナガ、アオムシ、ハイマダラノメイガ、カブラハバチ	2000~4000倍	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)
	アブラムシ類、ハモグリバエ類、キスジノミハムシ	2000倍					
	ヨトウムシ	4000倍					

その他の適用作物：キャベツ、はくさい、ブロッコリー、トマト、ミニトマト、きゅうり、ピーマン、レタス、いちご、えだまめ、だいず、ねぎ、たまねぎ、やまのいも、かんしょ、ばれいしょ、かぼちゃ、たばこ

△ 効果・葉害等の注意

- 使用前によく振ってから使用してください。
- 使用量に合わせ液量を調整し、使いきってください。
- 散布液調整後はできるだけ速やかに散布してください。
- アルカリ性の農薬や肥料との混用はさけてください。
- やむを得ず、他の薬剤と混用する場合には、事前に葉害の有無を十分確認してから使用してください。特に、銅剤との混用は葉害を生じるおそれがあるので、混用はしないでください。
- きゅうりに使用する場合、TPNを含む農薬との混用は葉害を生じるおそれがあるので、混用はしないでください。
- トマト及びミニトマトに使用する場合、葉害を生じるおそれがあるので、以下のことに注意してください。
 - ①アゾキシストロビンを含む農薬との混用はしないでください。
 - ②アゾキシストロビンを含む農薬を散布した場合には、散布後2週間以上間隔をあけて本剤を使用してください。
- はくさいに使用する場合、展着剤を加用すると葉害を生じる場合があるので、加用に当たっては事前にその適合を確認してください。
- 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節してください。
- 過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせて使用してください。
- つまみ菜・間引き菜には使用しないでください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。

- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

△ 安全使用上の注意

- 誤飲などのないよう注意してください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗顔・うがいをするともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 畜に対して影響があるので、周辺の家畜にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響を与えるおそれがあるので、散布の際はミツバチ及び巣箱にかからないようにしてください。また、散布直後から1日後まではミツバチを散布区域外に移動させるか、巣門を閉じてください。

- 使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水生動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼な所に保管してください。

殺虫剤分類 28

殺虫剤抵抗性管理 (IRM)

一般推奨事項：薬剤抵抗性の急速な発達を防ぐために、同一作用機構を持つ製品を連続する複数の害世代間隔にわたって処理することは避けること。ブロック式ローテーション、即ち、ベネビア ODまたは他のグループ28殺虫剤の「ブロック」の後に、異なる作用機構を持つ有効な殺虫剤処理の「ブロック」が続く形でローテーションを使用すること。作付期間(播種から収穫まで)を通して適応されるすべての「グループ28使用ブロック」の合計暴露期間は作付期間の50%を超えてはならない。栽培期間の短い作物は1栽培期間を1ブロックとする。IPM手法の一環として防除体系に組み込むこと。

害虫の抵抗性、作用機構及びモニタリングに関する追加情報の参照サイト
(1) Insecticide Resistance Action Committee(IRAC)ウェブサイト(<http://www.irac-online.org>)
(2) <http://www.fmc-japan.com/Agricultural-Solutions/IRAC>

●ラベルをよく読んでください。 ●記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。 ●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。 ●防除日誌を記帳しましょう。

